

Vol.24

はじける ころ

みのお・教育じまん
学校図書館は子どもが読書をたのしみ、学びを
探求していく場です ……1-2

箕面市夏季合同一日研 ……3

わが校の人権教育じまん
第二中学校 ……5

「ゆうやけの会」・「つばさの会」の紹介 ……6

みのお人権教育トピックス
クラス連絡網 ……7

げんげの：「げんげ（紫雪草）」とは、れんげ草のこと
で、「げんげの」は、れんげ草が一面に生い茂る野
原のことです。れんげ草は、茎が地に臥して広がり、
春になると蓮の花に似た小花を一面に咲かせます。また、
れんげ草は、緑肥として大地を肥やします。蓮に
似た小さなれんげ草を、子ども一人ひとりの尊厳に見
立てて、それが一面に花開く様子をイメージしました。



げんげののぺえじ

みのおから世界へ！人権文化の花束を！

●写真募集！●

子どもたちの笑顔、真剣な顔、輝く顔…などの写真をお送りください。

クラス連絡網

このコーナーでは、人権に関わる時事情報を取り上げています。

A：新聞で読んだけど、連絡網のための名簿を作るんだって。

B：ああ、あれね。新型インフルエンザ等で、学校が休校というようになるときに、連絡が必要でしょ。名簿があれば、短時間で連絡できるでしょ。

C：そうよね。休んでいる子の家庭訪問するのも、なんだかねえ。

A：いつから、全員の名簿って、なくなったわけ？

むかしは、どうだったのかなあ？

B：20数年前かな。そのころは、「名簿に名前を載せないで」という人は少数派で、周りの人になかなか理解されなかったらしい。それから少して、名簿を悪用して、ダイレクトメールや勧誘電話が増えて問題になって、個人情報保護の観点から全員の名前・住所・電話番号が入った名簿は廃止になったらしいわ。

C：そういう経緯があったのね。けど、ないと、やっぱり困るわね。

A：悪いことより、困ることのほうが多いの？

C：子どもの通っていた幼稚園では、園でクラスごとに作るものもあるけど、有志でも連絡網を作ってたわ。情報交換できて、安心だった。けど、小学校へあがったら、そういうつながりがなくなって、なんだかシャッターを下ろされたみたいな感じだったわ。

A：それって、幼稚園では、送迎を親がするから、先生とも、他の親とも、顔を会わせる機会があったから、PTAの連絡網の名簿も作りやすかったってこと？

C：ええ、そうよ。もちろん、「管理には気をつけるように」という注意書きはついているけど、信頼関係が基本なのかな。

B：かつて、クラス全体の連絡網がなかったところもあるけれど、緊急の時に対応できるように配られたそうよ。

A：前に、新聞で読んだけど、「噂話を連絡網で流されて困った」ということはないの？

C：私はないわ。あくまで、連絡網なので、目的を外れた使い方はしないんじゃない？

A：そうよね。だけど、業者の人が言葉巧みに小学生の子に同級生の電話番号や住所を言わせたことがあったとか。言ってしまった子は、自分のせいだとすごく心を痛めたらしいわ。

B：そういうこともあるのね。つらいわね。向こうは、プロだもんね。子どもに、そういう注意もしないといけないという時代なのかなあ。私たちの子どもの頃と、社会事情がずいぶん変わっているから、親も気をつけないとね。

個人情報保護法でも個人情報適正に取り扱えば名簿や連絡網の作成・配布ができます。加えて箕面では、名簿は、地域コミュニティの醸成や災害時の緊急連絡に必要な「有用である」として、「（仮称）ふれあい安心名簿条例（案）」制定をめざしています。この条例は、より安心して名簿を作成し、利用できる環境の整備を進め、地域社会の安全とコミュニティの進展を願っています。

あなたはこの会話を読んでどう思いましたか。

編集委員 守埴朋子、辻みゆき、

平沢清美、永尾通恵

人権教育推進会議情報誌 『はじける ころ』

発行 箕面市人権教育推進会議
箕面市教育委員会

人権教育課 TEL 072-724-6921 FAX 072-724-6010

e-mail: edujinken@maple.city.minoh.lg.jp

平成22年（2010年）1月

人権教育推進会議委員

平沢安政、谷川守保、河野秀忠、蒲隆夫、安東由紀子、辻みゆき、永尾通恵、姜信愛、守埴朋子、小関政子、平沢清美、山内美紀子、宮本智美、堤下利美、奥谷俊彦、竹綱珠衣、平林和男

「はじけるころ」は教職員・PTA運営委員に配布しています。また公共施設にもおいています。
公開ホームページ：http://www2.city.minoh.osaka.jp/EDUJINKEN/JINKEN/jinkenhtml

学校図書館は子どもが読書をたのしみ、 学びを探求していく場です

学びの館としての学校図書館

本市では、平成四年（一九九二年）に学校図書館司書を小学校に一名配置して以降、七年間をかけて全小中学校に配置いたしました。

そして、それまでの「鍵のかかった図書室」から「いつも人がいる学校図書館」になりました。

学校図書館は学習情報センター

として、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を進める情報の収集や、必要な情報を選択し、活用するといった情報化社会へ対応するための基礎となる教育など、学習指導要領に述べられている「生きる力」の育成を実現していく場として大切な役割を担っています。各校では、図書の時間、総合的な学習の時間、教科学習の時間等、さまざまな学習活動において、図書館を利用してあり、図書館司書は担任や担当教員と連携し、読書活動、調べ学習等におけるより効果的な活動を支えています。

また、学校図書館は、子どもたちが図書館司書と話をしたり、読書したりとそこに居るだけで心が癒され、ホッと居場所にもなっています。

図書館を使うことが ごく自然になっている 子どもたち

「この虫何を食べるの？」といった身近な質問から、「二コースで聞いた「コソボってどこ？」といったさまざまな疑問をもつて、子どもたちは気軽に図書館にやってきました。小学校で図書館を日常的に利用してきた子どもたちは、中学校へ入学してからも、図書館が身近な存在となっています。

図書館は生涯学習には欠くことのできない施設だといわれています。その意味でも、学校図書館は自ら学び力を身につける学習の場として大きな役割を担っています。

■図書館司書は一人ひとりの 「読みたい」「知りたい」とい う気持ちを応援します

子どもたちがふと立ち寄った時、思わず発見がある場、本と出会える場となるように、学校図書館司書は、いろいろなテーマで展示をしたり、本を紹介したり、様々な活動を行っています。

「おもしろい本はない？」という子に本を紹介したり、様々な活動を行っています。

「子どもたちの読書活動推進会議」にも力添えを、子どもたちの育ちを支える環境作りに努めています。

■図書館司書は授業を支援します

子どもたちの自由な読書を支えると同時に、授業の支援にも努めています。

「調べ学習」「資料の使い方」の学習」「国語の単元からさらに読書への興味をひくような本の紹介」など、担任と相談しながら授業にも力添えをします。

今課題となっている「情報リテラシー」を身につけるために、学校図書館を活用して一つの情報を、いくつかの本で確かめたり、視点がちがう本を読んでもらうという取り組みもみられます。

また、教師が教材研究や授業準備でも利用します。

このように、利用者の目的に応じて図書館はサービスに努めています。

学校図書館はまだまだ可能性を秘めた場所なのです。



西南小学校の図書館教育

西南小学校では、読書活動だけでなく情報活用能力を育てるための授業に図書館を使って取り組んでいます。

今回は5年生の授業に参加させていただきました。

社会科で学習したことを発展させ、国語の単元「二コースを伝えよう」で学んだ二コース番組という手法を使って、相手に情報を伝える授業でした。そのために、関連する情報を収集し、必要なものを選び、伝えたいことをまとめます。これらの作業の中で、一人ひとりが自分の考えをまとめ、グループ内で話し合い、共同で発表するという学習でした。

5年生では、「集めた資料や情報をまとめて、相手に伝えるように工夫することが出来る」ことを年間の目標にしています。それにあわせての授業であったと思います。

■図書館に入り、どんな授業が展開されるのか

と聞いていると、6人の児童が前に出て、担任の先生がスタートの合図をさされ、「二コースの時間



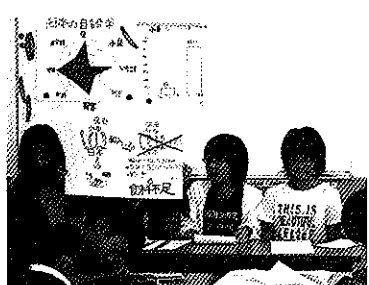
です」が始まりました。

持ち時間8分のTV二コース番組形式です。5、6人で班になり食糧問題を様々な観点から取り上げ、具体物・カード・写真などを利用して構成されていました。私はすっかり番組に引き込まれていました。

「図書館や資料の利用学習は授業と両輪のように」、また、「学習に必要なものはすべて資料になる」と、司書の先生が話されました。総合学習の「コマだそうです」が、資料を集めるときには司書の先生の支援も受けます。そして、世にあふれる様々な情報の中から視点を定め、必要不可欠な情報を上手に取捨選択し、番組を構成するまでに至ったと担任の先生にお聞きし、5年生でここまでできるのだと驚きました。

西南小学校では、情報教育を系統立てて、情報活用力の育成をめざしていますが、まずは図書館利用の仕方から始まり、自分が知りたい情報をどのように見つけ出すかといったことまで系統立てて1年生から順次学んでいるというところなので、この子達がこのように成長していくのが期待されています。学校図書館を利用しての調べ学習もこのような形で発表の機会があると楽しいだろうなと、子ども達の真剣な眼差しから感じました。

小関 政子



■キャスターという役割を演じることで、国語や社会科の内容を力バすると同時に、情報の集め方、組み合わせ方、焦点の絞り方、優先順位を考えた伝え方、わかりやすい話し方、時間管理、チームワークなど多岐にわたる学習の機会がありました。情報収集では、ふだん手に取らないような年鑑、グラフや図のある資料、関連のある本と次々出会うことができ、「手軽に情報が手に入るインターネットではなく、あえて本を活用する」ことで得られたものが多いだろうと思いました。各グループが、それぞれ個性を発揮し、工夫がみられる発表でした。

図書館司書の方から、「学校図書館は本（を展示する）だけでなく実物も展示するなど博物館のような役割もしている」と展示に工夫していること、「生涯学習の出発点」として果たす役割、本を大切に扱うマナー、男子の利用率の高さ、子ども達が学校図書館と外で遊ぶことを一日の中で選択していることなど興味深いお話をうかがいました。子どもたちが本の中の世界、人、世界との出会いを通じ、考える力を養い、これから先の人生の楽しみを増やしてほしいと思いました。

守 堀 朋子

■僕にとって、図書室は「できれば行きたくないところ」でした。昼休みにになると卓球教室に移動する「自由教室」の横の図書室。たしかひと月に1時間だけ「読書の時間」というのがあり、教科書を読むことすら苦痛の僕に読書が強制され、しかも感想ノートを提出しなければならなかった。読んでないことが明白な僕のノートには、「X」のはんこ「読み直して一週間後に再提出のこと」という担任のコメントが書かれていました。図書室に並んでいる本は、僕にとって何の魅力もないモノでした。図書室が価値あるものになったのは、長崎市内での浪人生活時代、下宿の隣部屋にいた、今や教育長ぐらいいに収まっているであろう長崎大学教育学部のスミさんが貸してくれた「龍馬がゆく」で読書に目覚めた僕を、『司馬遼太郎が読みたかったら君の予備校の向かいにある中央図書館で借りたらよかよ』と彼に連れていかれた時からになります。ですから、この授業参観と担任の先生や図書館司書の先生のお話の一つひとつのことが「うらやましい。僕は損したな」ということです。僕のような子どももいるかもしれませんが、自分の課題を解決していくのに学校図書館がどれほど有効であるかを知ること、インターネットの「気安さ」と別の意味で、「そのためにわざわざ出なければならぬ」極めて能動的な行動を呼び起こす糸口になるんだと思いました。

蒲 隆夫

箕面市夏季合同一日研

今年度も箕面市人権教育研究会・箕面市在日外国人教育研究会・箕面市教育研究会が合同で、8月3日、サンプラザの4会場で、8分科会をもって、夏季合同一日研を開催しました。参加者の様子から、学校に若い教職員が多くなったことを実感しました。

分科会企画も「人権・部落問題学習」「子どもの育ち」「共生の教育」の専門部企画、在日外国人教育研究会企画以外に、事務局企画を3分科会、市教研が1分科会を企画しました。

事務局企画では食育をテーマに「食と子どもの育ち」、支援教育をテーマに「ともに学び、ともに育つ集団を育てる」を企画しました。さらに4年前から少しずつ歩

第1分科会



（生き）人権の中で「授業」テーマ「授業」塾企画

方）を考える」と題して、5人の若い教師がリレートークで子ども一人ひとりに視点を当てた授業展開を紹介し、先輩教師たちを大いに刺激しました。



第2分科会

第1分科会:子どもの育ち専門部会

「子どもと子どもをつなぎ
子どもと社会をつなぐために」

第2分科会:人権・部落問題学習専門部会

「ここからはじまる部落問題学習
～授業づくりに熱と光を～」

第3分科会:共生の教育専門部会

「デートDVとコミュニケーション」

第4分科会:市外教

「多文化共生に生きる
～同じ目線で考えよう!～」

第5分科会:事務局

「ともに学び、ともに育つ集団を育てる」

第6分科会:未来塾

「授業の中で人権(生き方)を考える」

第7分科会:事務局

「食と子どもの育ち」

第8分科会:市教研

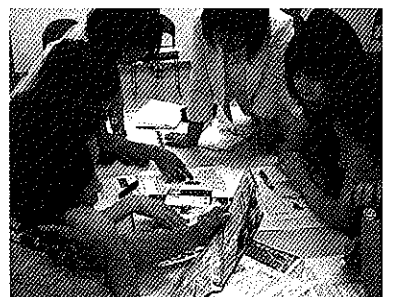
「アートでコミュニケーション」



第3分科会

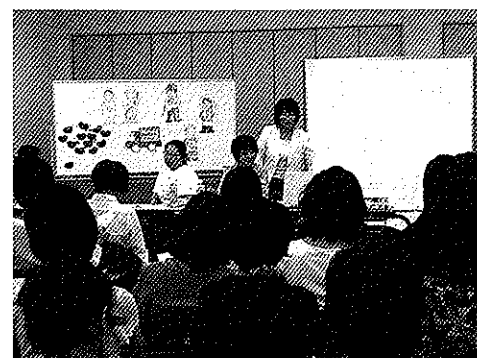


第5分科会



第4分科会

報告は個人・グループ・リレートーク、視覚的な工夫として掲示・パソコンを使用したプレゼン・ミニコントなど多彩でした。また、どの分科会もワークショップを通じて、参加者同士のつながりと学習の深まりを意識した企画の工夫をしました。



第7分科会

第二分科会

「ここからはじまる」

部落問題学習

～授業づくりに熱と光を～

今年の夏季研は、私には時間が短く感じられる充実したものでした。

二校の先生方の発表もさることながら、助言者の岡本先生の話パワのすごさに圧倒されました。部落問題学習では、歴史の学習を通して子ども達が生き方を学ぶのであるということ。子どもが教科学習を通してどう変わるかが大切であり、学校全体で取り組み、これこそがベースであると話されたこと。



先生は、子ども達の人のネットワークを変えていく基軸は何なのかを考えていかねばならない。箕面では、新しいネットワークづくりとして「らいとびあ21」を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして学んでいる。軸になる子を含めた周りの子ども達の変わる様子をみたりは教師冥利につ

きると話されたこと。

また、発表された和泉市の池宮先生は、「仲間づくりをしつかりすれば、差別をなくすことができる」と確信と展望を持っていきたい」と話され、私の学びのキーワードは「生き方学習」と「仲間づくり」でした。二校の発表を聞いた後、グループで話し合い、発表するという形式だったので、多くの先生方の生の声を聞くことができ、先生方の真摯な態度に感動しました。

小関政子

第三分科会

「デートDVとコミュニケーション」

「デートDVって何?」をテーマにした、生徒をDVの被害者にも被害者にもしないための人間関係のあり方についての実践報告を聞きました。



ドラマ『ラストレイン』やコントを題材に、気

第四分科会

多文化共生に生きる

～同じ目線で考えよう?!

豊川南小学校で実践されたワークショップに参加して、本当に世界は広いと思いました。世界にはたくさんの国があり、いろんな宗教と文化・風習・習慣によって、食べられる物と食べてはいけない物がきびしくわかれていてびっくりしました。「ヒンズー教では、牛を食べない」「イスラム教では、豚を食べない」など宗教により食事規制があり、よく知らないまま食べたら宗教上の罪悪感で苦しんだりすることを学びました。

授業後の感想に「ほくの弟もアレルギーがあり、食品表示を見て買っています。日本語の分からない外国人の人が食べてはいけない物があることは、もっと大変だろうと思いました。」という自分の弟のことを書いた文があったそうです。

特別報告、多言語進路ガイダンス「多様化する高校受験(受験)制度を伝えるために」は、私にとっては、とても救われた取り組みです。6年前に韓国から日本に来て、いくら日本語ができたとしても日本の教育システムがわからなくて、長女が高校受験でどの高校に行ったらよいか迷ったときに、母語による進路ガイダンスがあり、すごく助かりました。

姜信愛

第二中学校は、「学力・生活・仲間・地域に開かれた学校」を重点課題として、あらゆる面で地域との関わりを大切にした教育活動を進めています。なかでも、一年生の総合的な学習では、地域の人権について学ぶ地域学習を毎年行っています。その中心的な取り組みとなっているのが、今年で4年目になった「かやのお宝人権まつり」と「つながれ！ボランティアいきいき祭りinみのの」への参加です。ここで、その取り組みについて紹介します。

第二中学校

「地域に飛び込め！！」 ～1年生地域学習のとりくみ～

第二中学校は、「学力・生活・仲間・地域に開かれた学校」を重点課題として、あらゆる面で地域との関わりを大切にした教育活動を進めています。なかでも、一年生の総合的な学習では、地域の人権について学ぶ地域学習を毎年行っています。その中心的な取り組みとなっているのが、今年で4年目になった「かやのお宝人権まつり」と「つながれ！ボランティアいきいき祭りinみのの」への参加です。ここで、その取り組みについて紹介します。

「かやのお宝人権まつり」は、「あらゆる差別をなくす『まちづくり』」「『ミニユニティ』の推進」を目的に、多くの市民団体が共同で開催しています。「いきいき祭り」も、社会福



祉協議会を中心に市内のボランティア団体が共催している祭りで、二つの祭りが毎年同日にジョイント開催されています。どちらも人権をテーマにした祭りであることから、祭りに参加することを通して、地域の人権課題について知り、その解決に協力する体験を持つことを学習のねらいとしています。一学期の事前学習では、「かやのお宝人権まつり」の主催者の一人である地域の若者から聞き取りを行いました。今なお残っている部落差別について話を聞くとともに、その解消のために行われている活発なまちづくり活動についても知ることができました。生徒からは「自分も差別をしないようにしたい」「ぜひ祭りに参加したい」という感想があがっていました。



9月の文化祭では、一年生は毎年作品展示を行っています。今年は班で一枚のふすまに絵を描きました。この作品も、文化祭で展示された後、「かやのお宝人権まつり」の会場で、ステージの背景として展示されました。他にも、祭りの開催を知らせる旗を製作し、一週間前から会場近くに飾りました。また、ステージの看板も製作し、ふすま絵とともに飾りました。そして、10月31日（土）に、らいとびあ21周辺で「かやのお宝人権まつり」、ヴィソラで「いきいき祭り」が開催されました。当日も一年生の生徒はそれぞれの係で活躍しました。お宝まつりでは、ステージ司会やスタンプリ、受付や販売の仕事、子どもの遊び場などさまざまな係がありました。そして、今年のお宝まつりでは、



「人権学習」というと、どうしても深刻なイメージを持ってしまうがちですが、この学習は生徒が興味を持って、主体的にとりくむことができる内容になっています。また、活動を通して、地域の大人から感謝されることを体験し、自己肯定感を高めることにもつながっています。こうした取り組みを通して、地域のさまざまな活動を、地域に貢献する意欲を高めています。



児 害 障 学 中 立 市 面 貧
会 議 協 連 結 P T A

つばさの会

私たちの会は、子ども達の進路を考え、なかま共に歩んでほしいという親の願いから生まれました。

「貧面市人権教育推進会議」は、人権教育基本方針に基づき、具体的施策が効果的に推進されているかや今後の課題などを検討するために、幅広く市民・教職員から構成される貧面市の人権教育の応援団です。構成メンバーである「つばさの会」と「ゆうやけの会」を紹介します。

会の発足は、昭和六十二年六月です。市町村単位でこうした会があるところは少ないそうです。先輩の保護者や先生方が創り育ててこられたこの会で、一人ひとりの会員が困っていることや必要としている支援について声を集め、みんなのものとして考えていき、必要であれば、会として貧面市に伝えていくこともしています。今年度は、この趣旨に沿った活動の一つとして、アンケートを取り、どんなニーズがあるのかを把握し、今後の活動に生かしていこうと取り組んでいます。取り組みの内容容について知りたい方は、つばさの会までご連絡下さい。（問い合わせ：人権教育課）

何らかの支援を必要とする子ども達も、学校生活や放課後、そして、休日を通してでも快適に過ごせるようにしていくために、これからみんなが考えていきたいと思っています。



「中障研」主催お楽しみ会で各校の出し物の一場面



夏休み工作教室～ささゆり園にて～

ゆうやけの会では、各小学校の支援学級に在籍する児童の保護者で構成される「親の会」の活動を補助し、発展させることを目的として、

- ・親同士が知り合い、悩みを語り、子育ての情報を交換し合う（親睦の場）
- ・子どものおかれている社会的状況を認識し、将来の可能性を探り、検討する（学習の場）
- ・小学校段階（ゆうやけの会）で障害の異なる子ども達の親同士が親しくなり各団体との円滑な協力、活動の源となる（相互理解の場）

というような役割を果たせるよう活動し、この会を基盤に貧面市全体の連絡会を組織することをめざしています。

具体的な活動としては、毎年テーマを決めた学習会、夏休み工作教室、つばさの会との交流会、お楽しみ会、等様々な行事を行っています。

また、各学校では、親の会を元に、校長先生、支援学級の先生、学級担任の先生方に（早期療育士のアドバ

イスも受けながら）日々子ども達との関わりを通じて、じっくり実態把握を行い、子ども達の信頼関係を築いてもらっています。限られた予算や人員で個性の強い子ども達を日々指導して頂き、大変感謝しておりますが、保護者側も学校側も子ども達のために、お互いの意思疎通を図る努力を怠ってはいけません。

私達は、今後も子ども達がより充実した学校生活・地域生活を送るために、より深い周囲の理解を得るよう、活動していきたいと思っています。どうか支援して下さいる皆様方のご理解と協力をお願い致します。

◇ささやかなエピソード①

A君が苦手だったリコーダーのテストに合格。教室にいた介助員に「良かった。僕、嬉しい。」と伝えに行ったら、その後、休み時間には職員室にいた学習室の担任の先生にも報告しに行ったら、嬉しい気持ちを伝えたいと思える先生が学校に沢山いらつしやるということには子ども達にとってもとても幸せなこと。気持ちを共有してもらえという信頼感、安心感が子ども達の学校生活を大きく支えてくれていると思います。

◇ささやかなエピソード②

先生方と調理実習をしていた時、どら焼きを作ろうとしたら、失敗して小豆がとて固くなってしまったけどみんな笑いながら楽しくできておいしく(?)いただけました。